

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6974832号
(P6974832)

(45) 発行日 令和3年12月1日(2021.12.1)

(24) 登録日 令和3年11月9日(2021.11.9)

(51) Int.Cl.

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

F I

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

請求項の数 3 (全 21 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2017-186346 (P2017-186346)</p> <p>(22) 出願日 平成29年9月27日 (2017. 9. 27)</p> <p>(65) 公開番号 特開2019-58446 (P2019-58446A)</p> <p>(43) 公開日 平成31年4月18日 (2019. 4. 18)</p> <p>審査請求日 令和2年6月5日 (2020. 6. 5)</p>	<p>(73) 特許権者 599104196 株式会社サンセイアールアンドディ 愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番1 3号</p> <p>(74) 代理人 100112472 弁理士 松浦 弘</p> <p>(74) 代理人 100202223 弁理士 軸見 可奈子</p> <p>(72) 発明者 平野 泰弘 愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番1 3号 株式会社サンセイアールアンドディ 内</p>
---	--

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

支持ベースと、

前記支持ベースに支持され、駆動源により駆動されて第1方向に移動可能な移動ベースと、

前記移動ベースに搭載されて、前記移動ベースにおける第1位置と第2位置との間を移動可能な可動演出部材と、

前記移動ベースの移動に連動させて前記可動演出部材を移動させる連動機構と、

前記可動演出部材を前記第1位置に付勢する付勢手段と、

前記可動演出部材が前記第2位置に配置された状態で前記駆動源がオフされたときに、前記可動演出部材が前記第1位置に戻ることを規制するロック機構と、を備え、

前記連動機構は、前記支持ベースに設けられて前記第1方向に延びる第1ガイド部と、前記第1ガイド部と連続しかつ前記第1方向に対して傾斜した方向に延びる第2ガイド部と、前記移動ベースに搭載されて前記第1方向と直交する第2方向にスライド可能に支持されかつ前記可動演出部材と連動する中継部材と、前記中継部材に設けられて、前記第1ガイド部及び前記第2ガイド部に係合するスライド係合部と、を有し、

前記可動演出部材が前記第2位置に位置するときに、前記スライド係合部が前記第1ガイド部に係合して前記連動機構が前記ロック機構を兼ねる、遊技機。

【請求項2】

請求項1に記載の遊技機において、

10

20

前記付勢手段の付勢力は、前記可動演出部材が前記第 2 位置へ向かうにつれて大きくなる遊技機。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の遊技機において、

前記可動演出部材は、自重に逆らって前記第 2 位置から前記第 1 位置へ移動するように構成されている遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、可動演出部材を有する遊技機に関する。

10

【背景技術】

【0002】

特許文献 1 には、モータの駆動によって退避位置と作動位置との間を移動可能な可動演出部材を作動位置に付勢して、可動演出部材の作動位置への駆動をアシストするアシストバネを備えた遊技機が示されている遊技機が示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2008 - 229055 号公報（段落 [0033]、図 3）

【発明の概要】

20

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献 1 の遊技機では、可動演出部材を退避位置に保持するときに、モータに負荷がかかるという問題があった。

【0005】

可動演出部材を駆動する駆動源にかかる負荷を低減可能な遊技機の提供を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

第 1 の手段は、支持ベースと、前記支持ベースに支持され、駆動源により駆動されて第 1 方向に移動可能な移動ベースと、前記移動ベースに搭載されて、前記移動ベースにおける第 1 位置と第 2 位置との間を移動可能な可動演出部材と、前記移動ベースの移動に連動させて前記可動演出部材を移動させる連動機構と、前記可動演出部材を前記第 1 位置に付勢する付勢手段と、前記可動演出部材が前記第 2 位置に配置された状態で前記駆動源がオフされたときに、前記可動演出部材が前記第 1 位置に戻ることを規制するロック機構と、を備え、前記連動機構は、前記支持ベースに設けられて前記第 1 方向に延びる第 1 ガイド部と、前記第 1 ガイド部と連続しかつ前記第 1 方向に対して傾斜した方向に延びる第 2 ガイド部と、前記移動ベースに搭載されて前記第 1 方向と直交する第 2 方向にスライド可能に支持されかつ前記可動演出部材と連動する中継部材と、前記中継部材に設けられて、前記第 1 ガイド部及び前記第 2 ガイド部に係合するスライド係合部と、を有し、前記可動演出部材が前記第 2 位置に位置するときに、前記スライド係合部が前記第 1 ガイド部に係合して前記連動機構が前記ロック機構を兼ねる、遊技機である。

30

40

【発明の効果】

【0007】

上記発明によれば、可動演出部材を駆動する駆動源にかかる負荷を低減可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図 1】第 1 実施形態に係る遊技機の正面図

【図 2】遊技盤の正面図

【図 3】機構枠の正面図

【図 4】サイド可動役物ユニットの斜視図

50

【図5】回動レバーの動きを説明する断面図

【図6】回動パーツが終端位置に配置されたときの遊技盤の正面図

【図7】可動装飾部の平断面図

【図8】遊技盤の正面図

【図9】中継レバーの動きを模式的に示した背面図

【図10】中継レバーの動きを模式的に示した背断面図

【図11】中継レバーの動きを模式的に示した背面図

【図12】中継レバーの動きを模式的に示した背断面図

【図13】中継レバーの動きを模式的に示した背面図

【図14】中継レバーの動きを模式的に示した背断面図

10

【図15】他の実施形態に係るサイド可動役物ユニットを模式的に示した背面図

【図16】他の実施形態に係るサイド可動役物ユニットを模式的に示した背面図

【図17】他の実施形態に係るサイド可動役物ユニットを模式的に示した背面図

【発明を実施するための形態】

【0009】

[第1実施形態]

図1に示されるように、本実施形態の遊技機10は、パチンコ遊技機であって、前側が前面枠10Zにて覆われており、その前面枠10Zに形成されたガラス窓10Wを通して図2に示される遊技盤11の遊技領域R1が視認可能になっている。なお、以下の説明において、特記しない限り「右」及び「左」とは、遊技機10を前方から見た場合の「右」及び「左」を指すものとする。

20

【0010】

図1に示されるように、前面枠10Zのうちガラス窓10Wより下方には、上皿26と下皿27が上下2段にして設けられ、下皿27の右側には発射用ハンドル28が設けられている。発射用ハンドル28を回動操作すると、上皿26に収容された遊技球が遊技領域R1に向けて弾き出される。

【0011】

図2に示されるように、遊技領域R1は全体が略円形状となっていて、ガイドレール12により囲まれている。遊技盤11のうち遊技領域R1の中央には、表示開口11Hが貫通形成され、この表示開口11Hを通して、表示装置13の表示画面13Gが視認可能となっている。

30

【0012】

表示開口11Hの開口縁には、表示装飾枠23が取り付けられている。表示装飾枠23は、遊技盤11の前面側から表示開口11Hに嵌め込まれ、遊技盤11の前面から突出して遊技領域R1を流下する遊技球が表示装飾枠23の内側に進入することを規制している。

【0013】

遊技領域R1のうち表示装飾枠23の下方における左右方向の中央部には、センター始動入賞口14A及びアウト口16が、上から順に並べて設けられている。センター始動入賞口14Aは、ポケット構造をなし、その上面の開口部に遊技球が入球すると特別図柄当否判定が行われて、その特別図柄当否判定の結果が表示画面13Gにて表示される。

40

【0014】

表示装飾枠23の右側には、始動ゲート18が設けられると共に、表示装飾枠23の右辺部のうち始動ゲート18より下方位置には、サイド始動入賞口14Bが形成されている。始動ゲート18は、遊技球が潜って通過可能な門形構造をなし、遊技球が始動ゲート18を通過すると普通図柄当否判定が行われる。また、サイド始動入賞口14Bは、右側に開口し、可動片14Hによって開閉される。具体的には、可動片14Hは、通常は、鉛直に起立した閉位置に配置され、上述の普通図柄当否判定の結果が当たりとなったことを条件にして、下端部を中心に回動し、横倒しとなった開位置(図2に示される位置)に配置される。開位置に配置された可動片14Hは、上方から流下する遊技球を受け止めてサイド

50

始動入賞口 1 4 B へと案内する。センター始動入賞口 1 4 A と同様に、サイド始動入賞口 1 4 B に遊技球が入球したときも、特別図柄当否判定が行われ、その結果が表示画面 1 3 G にて表示される。

【 0 0 1 5 】

表示装飾枠 2 3 の右下には、左下がりに傾斜し且つ複数の球落下口 2 5 A を有した傾斜誘導部 2 5 が形成されている。傾斜誘導部 2 5 は、表示装飾枠 2 3 の右側に形成された右側流下路 2 4 R を流下してきた遊技球を受け止めて左側へと誘導し、球落下口 2 5 A から遊技球を落下させる。なお、本実施形態では、傾斜誘導部 2 5 は、複数の釘を列状に並べて構成される道釘と、樹脂ブロック 1 9 の上面 1 9 J とで構成されている。

【 0 0 1 6 】

本実施形態では、傾斜誘導部 2 5 に設けられた球落下口 2 5 A が 2 つとなっている。そして、左側の球落下口 2 5 A の下方に、第 1 大入賞部 3 1 の第 1 大入賞口 3 1 K と第 2 大入賞部 3 2 の第 2 大入賞口 3 2 K が上下に並べて設けられている。また、右側の球落下口 2 5 A の下方には、遊技球を受け入れて第 2 大入賞口 3 2 K より下方に流下させる迂回路 2 5 U が設けられている。

【 0 0 1 7 】

第 1 大入賞口 3 1 K は、横長矩形形状をなして前方に開放し、第 1 開閉扉 3 1 T によって開閉される。第 1 開閉扉 3 1 T は、第 1 大入賞口 3 1 K の下辺部を中心にして回動可能となっていて、通常は、略鉛直に起立した状態に保持されて、第 1 大入賞口 3 1 K を閉塞している。第 2 大入賞口 3 2 K は、第 1 大入賞口 3 1 K より幅広な横長矩形形状をなして前方に開放し、第 2 開閉扉 3 2 T によって開閉される。第 2 開閉扉 3 2 T は、第 2 大入賞口 3 2 K の下辺部を中心にして回動可能となっていて、通常は、起立姿勢に保持されて、第 2 大入賞口 3 2 K を閉塞している。なお、第 1 大入賞口 3 1 K と第 2 大入賞口 3 2 K とは、右辺部が揃えて配置されている。

【 0 0 1 8 】

第 1 大入賞口 3 1 K と第 2 大入賞口 3 2 K は、上述した特別図柄当否判定の結果が当たりとなったことを条件にして行われる大当り遊技の実行中に開放される。具体的には、大当り遊技が実行されると、第 1 開閉扉 3 1 T と第 2 開閉扉 3 2 T の何れか一方が、所定期間（例えば、10 秒）に亘って前方に倒れる。これにより、第 1 大入賞口 3 1 K と第 2 大入賞口 3 2 K の何れか一方に遊技球が入球可能となる。ここで、何れか一方の大入賞口 3 1 K , 3 2 K を入賞可能状態（所定期間内に繰り返し行われる開閉動作も含む）としてから入賞不可状態とするまでの（開放状態から閉塞状態までの）動作を「ラウンド」と称すると、1 回の大当り遊技は、所定回数（例えば、16 ラウンド）のラウンドが実行されるまで継続する。1 回のラウンドは、大入賞口 3 1 K , 3 2 K の開放時間が予め設定された上限時間に達するか、又は、規定上限数（例えば、10 個）の遊技球が入賞すると終了する。なお、本実施形態では、第 1 大入賞口 3 1 K は、所定のラウンド（例えば、3 ラウンド目）で開放される。

【 0 0 1 9 】

図 2 に示されるように、遊技領域 R 1 には、遊技球が入球可能な一般入賞口 2 1 が複数設けられている。一般入賞口 2 1 は、センター始動入賞口 1 4 A と同様に、ポケット構造をなし、遊技球を受け入れ可能となっている。詳細には、一般入賞口 2 1 は、遊技領域 R 1 における左下部分とサイド始動入賞口 1 4 B の右側に配置されている。なお、センター始動入賞口 1 4 A、サイド始動入賞口 1 4 B、第 1 大入賞口 3 1 K、第 2 大入賞口 3 2 K 及び一般入賞口 2 1 の何れかに遊技球が入球すると、各入賞口に対応して設定された所定数の賞球が上皿 2 6 に払い出される。また、上記の何れの入賞口にも入球しなかった遊技球は、遊技領域 R 1 の下端に配置されたアウト口 1 6 に取り込まれる。

【 0 0 2 0 】

遊技盤 1 1 の裏側には、図 3 に示される機構枠 1 7 が備えられている。機構枠 1 7 には、サイド可動役物ユニット 4 0 を含む種々の部品が固定されている。なお、機構枠 1 7 の内側の開口部 1 7 A は、遊技盤 1 1 の表示開口 1 1 H（図 2 参照）に重ねられて、表示装

10

20

30

40

50

置 1 3 の表示画面 1 3 G を視認可能とする。

【 0 0 2 1 】

図 4 に示されるように、サイド可動役物ユニット 4 0 は、機構枠 1 7 の上辺部に固定される固定ベース 4 1 と、固定ベース 4 1 に対して横方向に直動するスライドベース 5 1 と、スライドベース 5 1 に支持された可動装飾部 6 1 と、を備えている。

【 0 0 2 2 】

固定ベース 4 1 は、横長矩形板状をなす主板 4 2 と、主板 4 2 に前側から重ねて固定されるカバープレート 4 3 と、を備えている。主板 4 2 の前面には、中継ギア 4 5 と、中継ギア 4 5 からの動力を受けて回転する回転レバー 4 6 と、が取り付けられていて、カバープレート 4 3 が中継ギア 4 5 及び回転レバー 4 6 を前方から覆っている。そして、カバープレート 4 3 の前面に、中継ギア 4 5 を駆動する駆動源 4 4 が固定されている。

10

【 0 0 2 3 】

図 5 (A) に示されるように、回転レバー 4 6 は、主板 4 2 の上辺部に回転可能に支持され、主板 4 2 とカバープレート 4 3 の間の隙間から下方へはみ出している。回転レバー 4 6 の回転軸部 4 6 J は、駆動源 4 4 に対して右上に配置され、回転レバー 4 6 は、回転軸部 4 6 J から左下に延びる第 1 レバー位置 (図 5 (A) 参照) と、回転軸部から右下に延びる第 2 レバー位置 (図 5 (C) 参照) と、の間を移動する。なお、回転レバー 4 6 は、通常は、第 1 レバー位置に配置され、所定の演出条件が成立したときに、第 2 レバー位置に配置される。

【 0 0 2 4 】

20

中継ギア 4 5 の回転軸部 4 5 J (図 4 参照) は回転レバー 4 6 の回転軸部 4 6 J より下側に配置されて、中継ギア 4 5 は回転レバー 4 6 に前側から重ねられる。中継ギア 4 5 には、後側に突出する係合突起 4 5 T (図 5 (A) 参照) が設けられている。この係合突起 4 5 T は、回転レバー 4 6 の基端寄り部分 (回転軸部 4 6 J に近い側の部分) に形成された長孔 4 6 N に係合している。そして、駆動源 4 4 に駆動されて中継ギア 4 5 が回転すると、図 5 (A) 図 5 (B) 図 5 (C) に示されるように、回転レバー 4 6 が第 1 レバー位置から第 2 レバー位置へと回転する。

【 0 0 2 5 】

図 5 (A) , 9 に示されるように、スライドベース 5 1 は、横長のスライダ 5 2 の下方に支持プレート 5 3 を備えた構造になっている。スライダ 5 2 は、固定ベース 4 1 の主板 4 2 とカバープレート 4 3 との間にはさまれていて、図 8 , 9 に示されるように、スライダ 5 2 の長手方向の両端部からは、1 対の係合突部 5 2 T , 5 2 T が後側に突出している。そして、1 対の係合突部 5 2 T , 5 2 T が、主板 4 2 を貫通して横方向に延びる直動ガイド孔 4 2 A に係合している。なお、スライダ 5 2 の後面には、1 対の係合突部 5 2 T , 5 2 T の間に配置され、スライダ 5 2 との間に主板 4 2 を挟む押え板 5 4 が固定されている。

30

【 0 0 2 6 】

支持プレート 5 3 は、縦長の長方形をなして、スライダ 5 2 の左側部分に連絡し、主板 4 2 とカバープレート 4 3 の間の隙間から下側にはみ出している。支持プレート 5 3 の上端寄り部分には、上下方向に延びる長孔 5 1 N が形成されている。この長孔 5 1 N には、回転レバー 4 6 の先端部の後面に突設された係合ピン 4 6 P (図 5 (A) 参照) が係合している。

40

【 0 0 2 7 】

図 5 (A) から図 5 (B) への変化に示されるように、駆動源 4 4 からの動力を受けて回転レバー 4 6 が第 1 レバー位置から第 2 レバー位置へ向かって回転すると、回転レバー 4 6 の係合ピン 4 6 P が支持プレート 5 3 の長孔 5 1 N 内を下方に移動しながら支持プレート 5 3 を右側に押す。このとき、1 対の係合突部 5 2 T , 5 2 T は、直動ガイド孔 4 2 A 内を右側に移動する (図 9 , 1 0 から図 1 1 , 1 2 への変化を参照) 。なお、図 5 (B) では、回転レバー 4 6 が上下方向と略平行に配置され、係合ピン 4 6 P が長孔 5 1 N の下端寄り位置に配置されている。

50

【 0 0 2 8 】

図 5 (B) から図 5 (C) への変化に示されるように、回動レバー 4 6 がさらに第 2 レバー位置へ向かって回動すると、回動レバー 4 6 の係合ピン 4 6 P が長孔 5 1 N 内を上方に移動しながら支持プレート 5 3 をさらに右側へと押す。このとき、1 対の係合突部 5 2 T , 5 2 T は、直動ガイド孔 4 2 A 内をさらに右側に移動する。そして、回動レバー 4 6 が第 2 レバー位置に配置されると、図 6 に示されるように、スライドベース 5 1 が表示装飾枠 2 3 の内側に露出して表示画面 1 3 G の中央部に前側から重ねられる。なお、スライドベース 5 1 は、通常は、図 3 , 5 (A) に示される第 1 スライド位置に配置され、表示装飾枠 2 3 の左辺部の後ろに隠れている。そして、上述した所定の演出条件が成立したときに、図 5 (C) , 6 に示される第 2 スライド位置に配置され、遊技者に視認可能となる。

10

【 0 0 2 9 】

図 4 に示されるように、可動装飾部 6 1 は、支持プレート 5 3 の前面に固定された固定パーツ 6 2 と、固定パーツ 6 2 に対して回動可能な複数の回動パーツ 6 3 と、を備えている。固定パーツ 6 2 と回動パーツ 6 3 は共に正面視扇形状に形成され、扇の円弧が上端となるように配置されている。

【 0 0 3 0 】

各回動パーツ 6 3 は、固定パーツ 6 2 に前側から重ねられた始端位置 (図 3 参照) から下端部を中心に回動して終端位置 (図 6 参照) に配置される。複数の回動パーツ 6 3 が始端位置に配置された状態では、図 3 に示されるように、固定パーツ 6 2 と複数の回動パーツ 6 3 が全て重なった状態になる。また、複数の回動パーツ 6 3 の間では、固定パーツ 6 2 に近い側 (即ち、後側) に配置される回動パーツ 6 3 の終端位置までの回転角が、固定パーツ 6 2 から遠い側 (即ち、前側) に配置される回動パーツ 6 3 の終端位置までの回転角よりも小さくなっている。そして、複数の回動パーツ 6 3 が全て終端位置に配置された状態では、図 6 に示されるように、前側に配置される回動パーツ 6 3 ほど横倒しとなり、固定パーツ 6 2 と複数の回動パーツ 6 3 が展開した状態となる。なお、以下では、図 3 に示される可動装飾部 6 1 の状態を収縮状態と称し、図 6 に示される可動装飾部 6 1 の状態を展開状態と称することにする。

20

【 0 0 3 1 】

図 4 , 7 に示されるように、複数の回動パーツ 6 3 のうち最も前側に配置される回動パーツ 6 3 は、駆動源 4 4 からの動力を受けて回動する主動パーツ 6 4 となっていて、残りの回動パーツ 6 3 は、主動パーツ 6 4 の回動に伴って回動する従動パーツ 6 5 となっている。

30

【 0 0 3 2 】

具体的には、図 7 (A) に示されるように、主動パーツ 6 4 の後面には、主動パーツ 6 4 の回動中心と同心の円弧状をなす長孔 6 4 N が形成されている。また、従動パーツ 6 5 の後面にも、従動パーツ 6 5 の回動中心と同心の円弧状をなす長孔 6 5 N が形成されている。また、従動パーツ 6 5 の前面の右側部には、係合突起 6 5 T が設けられている。最も前側に配置される従動パーツ 6 5 の係合突起 6 5 T は、主動パーツ 6 4 の長孔 6 4 N と係合している。前から 2 番目以降の従動パーツ 6 5 の係合突起 6 5 T は、1 つ前の従動パーツ 6 5 の長孔 6 5 N と係合している。最も後側に配置される従動パーツ 6 5 の長孔 6 5 N には、固定パーツ 6 2 の前面の右側部に設けられた係合突起 6 2 T が係合している。

40

【 0 0 3 3 】

図 7 (A) から図 7 (B) への変化に示されるように、駆動源 4 4 からの動力を受けて主動パーツ 6 4 が回動すると、1 番前に配置される従動パーツ 6 5 の係合突起 6 5 T が主動パーツ 6 4 の長孔 6 4 N 内を相対的に移動し、長孔 6 4 N の内面のうち右側を向く面と当接する。そして、係合突起 6 5 T が長孔 6 4 N の内面に押され、最も前側に配置される従動パーツ 6 5 が主動パーツ 6 4 と共に回動する。図 7 (B) から図 7 (C) への変化に示されるように、主動パーツ 6 4 が更に回動すると、前から 2 番目に配置される従動パーツ 6 5 の係合突起 6 5 T が 1 番前の従動パーツ 6 5 の長孔 6 5 N 内を相対的に移動し、長

50

孔 6 5 N の内面のうち右側を向く面と当接する。そして、前から 2 番目の従動パーツ 6 5 の係合突起 6 5 T が 1 番前の従動パーツ 6 5 の内面に押され、前から 2 番目の従動パーツ 6 5 が主動パーツ 6 4 と 1 番前の従動パーツ 6 5 と共に回転する。そして、残りの従動パーツ 6 5 についても、1 つ前の従動パーツ 6 5 に押されて回転することで、可動装飾部 6 1 が収縮状態 (図 3) から展開状態 (図 6) に変化する。なお、展開状態から収縮状態へ変化する際には、逆の手順となり、具体的には、1 番前の従動パーツ 6 5 の係合突起 6 5 T が主動パーツ 6 4 の長孔 6 4 N の内面のうち左側を向く面に押され、残りの従動パーツ 6 5 の係合突起 6 5 T が 1 つ前の従動パーツ 6 5 の長孔 6 5 N の内面のうち左側を向く面に押される。

【 0 0 3 4 】

次に、駆動源 4 4 から主動パーツ 6 4 への動力伝達について説明する。この動力伝達は、図 8 , 9 に示される中継レバー 7 1 を介して行われる。中継レバー 7 1 は、上下方向に直線状に延びる帯板状をなして、スライドベース 5 1 の支持プレート 5 3 の後面に重ねられている。中継レバー 7 1 の下端部は、支持プレート 5 3 の後面の下端部に取り付けられた回転盤 7 2 に連結されている。なお、詳細には、回転盤 7 2 は、円板に左下方から三角板が接続されたティアドロップ形状をなし、中継レバー 7 1 は、三角板部分に連結されている。

【 0 0 3 5 】

回転盤 7 2 は、支持プレート 5 3 の厚み方向に回転軸を有して、支持プレート 5 3 に対して自由回転可能に取り付けられている。回転盤 7 2 の回転軸部 7 2 J は、支持プレート 5 3 と複数の従動パーツ 6 5 の下端部を貫通して、可動装飾部 6 1 の主動パーツ 6 4 (図 4 参照) の下端部に連絡している。そして、回転盤 7 2 と一体に主動パーツ 6 4 が回転するようになっている。

【 0 0 3 6 】

中継レバー 7 1 の中間部は、支持プレート 5 3 に回転自在に取り付けられた揺動レバー 7 3 に連結されている。揺動レバー 7 3 は、回転盤 7 2 の上方に配置されていて、揺動レバー 7 3 の回転中心から揺動レバー 7 3 と中継レバー 7 1 の連結部位までの距離は、回転盤 7 2 の回転中心から回転盤 7 2 と中継レバー 7 1 の連結部位までの距離と同じになっている。このように、本実施形態では、中継レバー 7 1 が上下に並べられた回転盤 7 2 と揺動レバー 7 3 に連結されるので、回転盤 7 2 及び揺動レバー 7 3 の回転に伴って上下方向に安定的に移動することが可能となる。

【 0 0 3 7 】

図 8 , 9 に示されるように、中継レバー 7 1 の上端部には、後側に突出した係合突部 7 1 T が設けられている。係合突部 7 1 T は、固定ベース 4 1 の主板 4 2 の前面に形成されたガイド溝 5 5 と係合している。ガイド溝 5 5 は、左右方向に直線状に延びる第 1 直線部 5 5 A と第 2 直線部 5 5 B を上下方向にずらして両端部に備えると共に、左右方向に対して交差するように延びて第 1 直線部 5 5 A と第 2 直線部 5 5 B を連絡する中間連絡部 5 6 を中間部に備えている。詳細には、左側に配置される第 1 直線部 5 5 A (図 8 , 9 では右側に示されている) は右側に配置される第 2 直線部 5 5 B よりも下方に位置し、中間連絡部 5 6 は、右上がりに傾斜すると共に、下に凸となる円弧状に緩やかに湾曲している。

【 0 0 3 8 】

さて、駆動源 4 4 からの動力を受けてスライドベース 5 1 が第 1 スライド位置から第 2 スライド位置へ移動すると、スライドベース 5 1 の支持プレート 5 3 に支持された中継レバー 7 1 もスライドベース 5 1 の移動に伴って右側へと移動する。ここで、図 9 , 10 に示されるように、スライドベース 5 1 が第 1 スライド位置に配置されている状態で、中継レバー 7 1 の係合突部 7 1 T は、ガイド溝 5 5 の第 1 直線部 5 5 A に受容されている。そして、スライドベース 5 1 が第 2 スライド位置へ向かって移動すると、図 11 , 12 に示されるように、係合突部 7 1 T は、ガイド溝 5 5 内を右側へと移動し、中間連絡部 5 6 に受容される。ここで、中間連絡部 5 6 は、右上がりに傾斜しているため、係合突部 7 1 T がガイド溝 5 5 の中間連絡部 5 6 の下面によって持ち上げられ、中継レバー 7 1 が上方へ

10

20

30

40

50

と移動する。すると、支持プレート53の後側から見て回転盤72が反時計方向に回転し、その回転盤72と一体に可動装飾部61の主動パーツ64が回転する。

【0039】

スライドベース51の第2スライド位置への移動に伴って、係合突部71Tがガイド溝55の中間連絡部56を移動する間、中継レバー71は上昇し続け、可動装飾部61の主動パーツ64は回転盤72と一体に回転し続ける。そして、係合突部71Tがガイド溝55の中間連絡部56を通過して第2直線部55Bに到達すると、中継レバー71の上昇が止まり、可動装飾部61の主動パーツ64の回転も止まる。そして、スライドベース51が第2スライド位置に配置されると、図13, 14に示されるように、係合突部71Tがガイド溝55の第2直線部55Bに受容され、可動装飾部61の主動パーツ64が終端位置に配置される。このとき、可動装飾部61は展開状態(図6参照)となっている。

10

【0040】

スライドベース51が第2スライド位置から第1スライド位置へ戻るときは、スライドベース51の移動に伴って係合突部71Tがガイド溝55内を左側へと移動する。係合突部71Tが中間連絡部56を受容されているときには、係合突部71Tが中間連絡部56の上面に押し下げられて、中継レバー71が下方へと移動する。すると、支持プレート53の後側から見て回転盤72が時計方向に回転し(図13から図11への変化を参照)、その回転盤72と一体に可動装飾部61の主動パーツ64が回転する。係合突部71Tが中間連絡部56を通過して第1直線部55Aに到達すると、中継レバー71の下降が止まり、可動装飾部61の主動パーツ64の回転も止まる。そして、スライドベース51が第1スライド位置に戻ると、係合突部71Tが第1直線部55Aを受容されると共に、可動装飾部61の主動パーツ64が始端位置に配置される。このとき、可動装飾部61は収縮状態(図3参照)に戻る。

20

【0041】

遊技機10では、可動装飾部61が展開状態から収縮状態に戻るとき、主動パーツ64が重力に逆らって移動することになる。従って、可動装飾部61が収縮状態に戻るときは、可動装飾部61が展開状態に変化するときよりも、駆動源44の負荷が大きくなる。この駆動源44の負荷を低減するために、遊技機10では、主動パーツ64の重力に逆らった移動をアシストするアシストバネ75が備えられている。

【0042】

図8に示されるように、アシストバネ75は、中継レバー71を下方に付勢することで、主動パーツ64と一体に回転する回転盤72を後側から見て反時計方向に付勢する。具体的には、アシストバネ75は、支持プレート53の裏面の下端寄り部分と中継レバー71の中間部とに設けられたフック75Fに引っ掛けられて、中継レバー71を下方に付勢する。

30

【0043】

アシストバネ75は、スライドベース51が第1スライド位置(図3, 8, 9に示されるスライドベース51の位置)に配置されている状態で、自然長よりも長くなっていて、中継レバー71を下方へ付勢している。そして、スライドベース51が第2スライド位置(図6, 13に示されるスライドベース51の位置)へ移動して、中継レバー71が上方へ移動すると、アシストバネ75の付勢力が次第に強くなる。

40

【0044】

ところで、遊技機10では、可動装飾部61が展開状態のときも中継レバー71は下方に付勢されるため、駆動源44をオフにすると、中継レバー71がアシストバネ75の付勢力を受けて下方へと移動し、可動装飾部61が収縮状態に戻ることが考えられる。しかしながら、遊技機10では、可動装飾部61が展開状態になっているとき、中継レバー71の係合突部71Tは、ガイド溝55の第2直線部55Bの内面(詳細には、第2直線部55Bの内面のうち上側を向く面)と当接する。ここで、第2直線部55Bは左右方向に直線状に延びていて、係合突部71Tは第2直線部55Bと直交する方向に付勢されるので、係合突部71Tが第2直線部55Bに沿って移動することがなくなる。これにより、

50

可動装飾部 6 1 が展開状態のときに駆動源 4 4 がオフになっても、中継レバー 7 1 が下方へ移動することがなくなり、可動装飾部 6 1 が収縮状態に戻ることが防がれる。言い換えれば、可動装飾部 6 1 を展開状態に保持するために、駆動源 4 4 をオンしておく必要がなくなり、駆動源 4 4 の負荷が低減される。

【 0 0 4 5 】

本実施形態の遊技機 1 0 の構成に関する説明は以上である。遊技機 1 0 によれば、以下の優れた効果を奏することが可能となる。

【 0 0 4 6 】

本実施形態の遊技機 1 0 によれば、可動装飾部 6 1 が右に移動しながら回転するので、可動装飾部 6 1 の動きの多様化が図られる。しかも、本構成では、可動装飾部 6 1 の第 1 方向への移動と回転とが 1 つの駆動源 4 4 によって達成されるので、駆動源を複数備える場合と比較して、駆動源 4 4 の制御が容易となる。

【 0 0 4 7 】

また、本実施形態の遊技機 1 0 では、スライドベース 5 1 の移動に伴って係合突部 7 1 T がガイド溝 5 5 に沿って移動する。そして、ガイド溝 5 5 の中間部には、左右方向と上下方向の双方に対して傾斜する中間連絡部 5 6 が備えられているので、スライドベース 5 1 を左右に移動させることによって係合突部 7 1 T が上方に移動し、中継レバー 7 1 を上方に移動させることが可能となる。このように、本実施形態の遊技機 1 0 によれば、簡易な構成によって中継レバーを上方に移動させることが可能となる。

【 0 0 4 8 】

また、固定ベース 4 1 には、横方向に延在する直動ガイド孔 4 2 A が備えられると共に、スライドベース 5 1 には、直動ガイド孔 4 2 A と係合する一对の係合突部 5 2 T, 5 2 T が備えられているので、係合突部 7 1 T のガイド溝 5 5 に沿った移動の安定化が図られる。

【 0 0 4 9 】

また、可動装飾部 6 1 は、遊技者から見てスライドベース 5 1 の表側に配置され、中継レバー 7 1 は、遊技者から見てスライドベース 5 1 の裏側に隠されているので、中継レバー 7 1 を遊技者に視認困難にすることが可能となる。

【 0 0 5 0 】

また、本実施形態では、可動装飾部 6 1 が表示装飾枠 2 3 の後側に隠れた状態から右に移動して視認可能となる。このとき、可動装飾部 6 1 は、収縮状態のときの左右方向に幅狭な待機姿勢から、展開状態のときの左右方向に幅広な演出姿勢へと変化するので、遊技者にインパクトを付与することが可能となる。

【 0 0 5 1 】

また、本実施形態では、アシストパネ 7 5 によって下方に付勢される中継レバー 7 1 は、可動装飾部 6 1 の各回転パーツ 6 3 が終端位置に配置されたときに、第 2 直線部 5 5 B によって下方への移動が規制される。そして、中継レバー 7 1 を搭載するスライドベース 5 1 が左右方向と直交する上下方向に移動可能に構成されているので、第 2 直線部 5 5 B が駆動源 4 4 による駆動の妨げになることが抑制される。

【 0 0 5 2 】

また、本実施形態では、スライドベース 5 1 を右に移動可能に支持する固定ベース 4 1 を備え、固定ベース 4 1 には、横方向に沿って延在する溝により構成されるガイド溝 5 5 が備えられると共に、中継レバー 7 1 には、ガイド溝 5 5 と係合する係合突部 7 1 T が備えられている。そして、可動装飾部 6 1 の回転パーツ 6 3 が終端位置に配置されたときに、係合突部 7 1 T がガイド溝 5 5 の第 2 直線部 5 5 B の内面に上方から当接し、係合突部 7 1 T と第 2 直線部 5 5 B の内面とから、ロック機構が構成される。このように、本実施形態の遊技機 1 0 では、簡易な構成によってロック機構を構成することが可能となる。

【 0 0 5 3 】

また、アシストパネ 7 5 の付勢力は、可動装飾部 6 1 の回転パーツ 6 3 が終端位置に向かうにつれて大きくなるので、終端位置に配置された可動装飾部 6 1 の回転パーツ 6 3 が

10

20

30

40

50

始端位置へ向かうときの動作の素早くすることが可能となる。

【0054】

また、可動装飾部61の回動パーツ63は自重に逆らって終端位置から始端位置へ移動するので、可動装飾部61の回動パーツ63の自重に逆らった移動をアシストバネ75によってアシストすることが可能となる。

【0055】

[他の実施形態]

本発明は、上記実施形態に限定されるものではなく、例えば、以下に説明するような実施形態も本発明の技術的範囲に含まれ、さらに、下記以外にも要旨を逸脱しない範囲内で種々変更して実施することができる。

【0056】

(1) 回動パーツ63が従動パーツ65を備えずに主動パーツ64のみから構成されてもよい。

【0057】

(2) 上記実施形態では、直動ガイド孔42Aがガイド溝55よりも上方に配置されていたが、直動ガイド孔42Aがガイド溝55よりも下方に配置されてもよい。このとき、中継レバー71は、一对の係合突部52T、52Tと上下方向で重ならない位置に配置される。

【0058】

(3) サイド可動役物ユニット40が揺動レバー73を備えなくてもよく、中継レバー71が回転盤72のみに連結されていてもよい。

【0059】

(4) 図15に示すように、直動ガイド孔42Aの代わりに、湾曲したガイド孔42Bが固定ベース41に設けられてもよい。このとき、ガイド溝55は、ガイド孔42Bと同じ方向に伸びる第1曲線部55Cと第2曲線部55Dをガイド孔42Bが伸びる方向に対して垂直な方向にずらして両端部に備える共に、ガイド孔42Bが伸びる方向に対して交差するように伸びて第1曲線部55Cと第2曲線部55Dとを連絡する中間連絡部56を備えている。そして、スライドベース51がガイド孔42Bに沿って移動すると共に、中継レバー71がガイド孔42Bの伸びる方向に対して垂直な方向に移動して、回転盤72が回転する。

【0060】

(5) 図16に示されるように、ガイド溝55の第2直線部55Bが第1直線部55Aよりも下方に配置され、ガイド溝55の中間連絡部56が右下がり(図16では左下がり)に傾斜した形状であってもよい。このとき、回転盤72は中継レバー71よりも左側(図16では右側)に配置され、スライドベース51が第1スライド位置に配置されているときの回転盤72と中継レバー71との連結部が回転盤72の回転軸部72Jの右上(図16では左上)に配置される。また、アシストバネ75は中継レバー71を上方に付勢している。そして、スライドベース51が第1スライド位置から第2スライド位置へと移動すると、中継レバー71が下方に移動して、回転盤72が反時計回りに回転する。

【0061】

(6) ガイド溝55の中間連絡部56が、右上がりに傾斜した部分と右下がりに傾斜した部分との両方を備えていてもよい。このとき、スライドベース51が第1スライド位置から第2スライド位置へと移動する間に、可動装飾部61を一度展開状態にしてから収縮状態にすることができる。

【0062】

(7) 図17に示されるように、中継レバー71にガイド溝55を設けて、固定ベース41に係合突部71Tを設けてもよい。詳細には、中継プレート71Aの上部は左右方向に伸びていて、ガイド溝55が設けられている。そして、固定ベース41から突出した係合突部71Tがガイド溝55と係合している。スライドベース51が第1スライド位置から第2スライド位置へと右に移動すると、中継プレート71Aも共に右に移動しつつ、係

10

20

30

40

50

合突部 7 1 T によって中継プレート 7 1 A が上方に押し上げられて、回転盤 7 2 が時計回りに回転する。

【 0 0 6 3 】

(8) 上記実施形態において、スライドベース 5 1 に直動ガイド孔 4 2 が設けられて、固定ベース 4 1 に 1 対の係合突部 5 2 T , 5 2 T が設けられてもよい。

【 0 0 6 4 】

(9) 可動装飾部 6 1 がスライドベース 5 1 の裏側に配置されてもよく、中継レバー 7 1 がスライドベース 5 1 の表側に配置されてもよい。

【 0 0 6 5 】

(1 0) 可動装飾部 6 1 は正面視扇形状に限られず、どのような形状であってもよい。例えば、可動装飾部 6 1 が円形状であってもよく、このとき、スライドベース 5 1 が第 1 スライド位置から第 2 スライド位置へと移動して可動装飾部 6 1 が回転しても、可動装飾部 6 1 の左右方向の幅が変化しなくてもよい。

10

【 0 0 6 6 】

(1 1) 上記実施形態において、アシストパネ 7 5 が中継レバー 7 1 を上方に付勢していてもよい。このとき、アシストパネ 7 5 の付勢力は、スライドベース 5 1 が第 1 スライド位置から第 2 スライド位置へと向かうにつれて小さくなる。

【 0 0 6 7 】

< 付記 1 >

以下、上述した各実施の形態から抽出される発明群の特徴について、必要に応じて効果等を示しつつ説明する。なお、以下では、理解の容易のため、上記実施形態において対応する構成を括弧書き等で適宜示すが、この括弧書き等で示した具体的構成に限定されるものではない。

20

【 0 0 6 8 】

< 特徴 A 群 >

以下の特徴 A 群は、「可動演出部材を有する」遊技機に関し、「特許文献 A (特開 2 0 0 8 - 2 2 9 0 5 5 号公報 (段落 [0 0 3 3]、図 3)) には、上下方向に移動する可動演出部材を備えた遊技機が示されている。」という背景技術について、「特許文献 A の遊技機では、可動演出部材の動きが単調であるという問題があった。」という課題をもってなされたものである。

30

【 0 0 6 9 】

[特徴 A 1]

第 1 方向に移動可能な可動演出部材 (可動装飾部 6 1、特に、主動パーツ 6 4) を有する遊技機 (遊技機 1 0) であって、

駆動源 (駆動源 4 4) により駆動されて前記第 1 方向に移動可能な移動ベース (スライドベース 5 1) を有すると共に、

前記移動ベースに、前記移動ベースの移動に伴って前記第 1 方向と交差する第 2 方向に移動可能な第 1 中継部材 (中継レバー 7 1) と、前記第 1 中継部材から動力を受けて回動可能な第 2 中継部材 (回転盤 7 2) と、を搭載して備え、

前記可動演出部材は、前記移動ベースに搭載されて、前記第 2 中継部材と一体に回動するように構成されている遊技機。

40

【 0 0 7 0 】

本特徴に示す構成では、可動演出部材が第 1 方向に移動しながら回動するので、可動演出部材の動きの多様化が図られる。しかも、本構成では、可動演出部材の第 1 方向への移動と回動とが 1 つの駆動源によって達成されるので、駆動源を複数備える場合と比較して、駆動源の制御が容易となる。

【 0 0 7 1 】

[特徴 A 2]

特徴 A 1 に記載の遊技機において、

前記移動ベースを前記第 1 方向に移動可能に支持する支持ベース (固定ベース 4 1) を

50

有し、

前記支持ベースと前記第1中継部材のうち一方には、前記第1方向に沿って延在する溝又は長孔により構成される第1ガイド部（ガイド溝55）が備えられると共に、他方には、前記第1ガイド部と係合する第1係合突部（係合突部71T）が備えられ、

前記第1ガイド部には、前記第1方向の一方側に向かうにつれて前記第2方向の一方側に向かう傾斜部（中間連絡部56）が設けられている遊技機。

【0072】

本特徴に示す構成では、移動ベースの移動に伴って第1係合突部が第1ガイド部に沿って移動する。そして、第1ガイド部に設けられた傾斜部によって第1係合突部が第2方向に移動することで、第1中継部材を第2方向に移動させることが可能となる。このように、本構成によれば、簡易な構成によって第1中継部材を第2方向に移動させることが可能となる。

10

【0073】

[特徴A3]

特徴A2に記載の遊技機において、

前記支持ベースと前記移動ベースのうち一方には、前記第1方向に延在する溝又は長孔により構成される第2ガイド部（直動ガイド孔42A）が備えられると共に、他方には、前記第2ガイド部と係合する第2係合突部（係合突部52T）が備えられている遊技機。

【0074】

本特徴に示す構成によれば、第1係合突部の第1ガイド部に沿った移動の安定化が図られる。

20

【0075】

[特徴A4]

特徴A1乃至A3のうち何れか1に記載の遊技機において、

前記移動ベースに回動可能に支持される揺動レバー（揺動レバー73）を有し、

前記第1中継部材は、前記揺動レバーに連結され、

前記揺動レバーと前記第1中継部材の連結部から前記揺動レバーの回動中心までの距離が、前記第2中継部材と前記第1中継部材の連結部から前記第2中継部材の回動中心までの距離と同じになっている遊技機。

【0076】

本特徴に示す構成では、第1中継部材の第2方向への移動の安定化が図られる。

30

【0077】

[特徴A5]

特徴A1乃至A4のうち何れか1に記載の遊技機において、

前記可動演出部材は、遊技者から見て前記移動ベースの表側に配置され、

前記第1中継部材は、遊技者から見て前記移動ベースの裏側に隠れている遊技機。

【0078】

本特徴に示す構成によれば、第1中継部材を遊技者に視認困難にすることが可能となる。

。

【0079】

[特徴A6]

特徴A1乃至A5のうち何れか1に記載の遊技機において、

前記移動ベースは、カバー部材（表示装飾枠23）の裏側に隠れた第1ベース位置から第1方向に移動して第2ベース位置に配置されるように構成され、

前記可動演出部材は、前記移動ベースが前記第1ベース位置から前記第2ベース位置へ移動するときに、前記第1方向に幅狭な待機姿勢（図3に示される収縮状態の可動装飾部61（回動パーツ63）の姿勢）から前記第1方向に幅広な演出姿勢（図6に示される展開状態の可動装飾部61（回動パーツ63）の姿勢）へと変化するように構成されている遊技機。

40

【0080】

50

本特徴に示す構成では、可動演出部材がカバー部材の後側に隠れた状態から第1方向に移動して視認可能となる。このとき、可動演出部材は、第1方向に幅狭な待機姿勢から第1方向に幅広な演出姿勢へと変化するもので、遊技者にインパクトを付与することが可能となる。

【0081】

[特徴A7]

第1方向に移動可能な可動演出部材(可動装飾部61、特に、主動パーツ64)を有する遊技機(遊技機10)であって、

前記可動演出部材は、駆動源(駆動源44)により駆動されて前記第1方向に移動可能な移動ベース(スライドベース51)に搭載され、

前記移動ベースには、前記移動ベースの移動に伴って前記可動演出部材を回動させる連動機構(中継レバー71、回転盤72及びガイド溝55により構成される主動パーツ64の駆動機構)が備えられている遊技機。

【0082】

本特徴に示す構成では、可動演出部材が第1方向に移動しながら回動するので、可動演出部材の動きの多様化が図られる。しかも、本構成では、可動演出部材の第1方向への移動と回動とが1つの駆動源によって達成されるので、駆動源を複数備える場合と比較して、駆動源の制御が容易となる。

【0083】

なお、特徴A7に示す構成に、特徴A2～A6に示す構成が組み合わされてもよい。

【0084】

<特徴B群>

以下の特徴B群は、「第1位置と第2位置との間を移動可能な可動演出部材を有する」遊技機に関し、「特許文献B(特開2012-34746号(段落[0064]～[0065]、図8,9))には、モータの駆動によって退避位置と作動位置との間を移動可能な可動演出部材を作動位置に付勢して、可動演出部材の作動位置への駆動をアシストするアシストバネを備えた遊技機が示されている。」という背景技術について、「特許文献Bの遊技機では、可動演出部材を退避位置に保持するときに、モータに負荷がかかるという問題があった。」という課題をもってなされたものである。

【0085】

[特徴B1]

駆動源(駆動源44)からの動力を受けて第1位置(図3に示される可動装飾部61(主動パーツ64)の位置)と第2位置(図6に示される可動装飾部61(主動パーツ64)の位置)との間を移動可能な可動演出部材(可動装飾部61、特に、主動パーツ64)と、

前記可動演出部材を前記第1位置に付勢する付勢手段(アシストバネ75)と、

前記可動演出部材が前記第2位置に配置された状態で前記駆動源がオフされたときに、前記可動演出部材が前記第1位置に戻ることを規制するロック機構(中継レバー71の係合突部71Tとガイド溝55の第2直線部55B)と、を有する遊技機(遊技機10)。

【0086】

本特徴に示す構成では、可動演出部材が第2位置に配置されたときに、駆動源がオフされても、ロック機構によって可動演出部材が第1位置へ戻ることが規制される。これにより、駆動源の負荷を低減することが可能となる。

【0087】

[特徴B2]

特徴B1に記載の遊技機において、

前記駆動源により駆動されて第1方向に移動可能な移動ベース(スライドベース51)と、

前記移動ベースに搭載され、前記移動ベースの移動に伴って前記第1方向と直交する第2方向に移動可能な中継部材(中継レバー71)と、を有し、

10

20

30

40

50

前記可動演出部材は、前記中継部材からの動力を受けて前記第 1 位置と前記第 2 位置との間を移動可能に構成され、

前記付勢手段は、前記中継部材を前記第 2 方向の一方側に付勢するように構成され、

前記ロック機構は、前記可動演出部材が前記第 2 位置に配置されたときに、前記中継部材が前記第 2 方向に一方側へ移動することを規制する遊技機。

【 0 0 8 8 】

本特徴に示す構成では、付勢手段によって第 2 方向の一方側に付勢される中継部材は、可動演出部材が第 2 位置に配置されたときに、ロック機構によって第 2 方向の一方側への移動が規制される。そして、中継部材を搭載する移動ベースが第 2 方向と直交する第 1 方向に移動可能に構成されているので、ロック機構が駆動源による駆動の妨げになることが抑制される。

10

【 0 0 8 9 】

[特徴 B 3]

特徴 B 2 に記載の遊技機において、

前記移動ベースを前記第 1 方向に移動可能に支持する支持ベース（固定ベース 4 1 ）と

、前記支持ベースと前記中継部材のうち一方には、前記第 1 方向に沿って延在する溝又は長孔により構成されるガイド部（ガイド溝 5 5 ）が備えられると共に、他方には、前記ガイド部と係合する係合突部（中継レバー 7 1 の係合突部 7 1 T ）が備えられ、

前記ガイド部には、前記可動演出部材が前記第 2 位置に配置されたときに前記第 2 方向の一方側から前記係合突部と当接する当接面（ガイド溝 5 5 の第 2 直線部 5 5 B の内面のうち上側を向く面）が設けられ、

20

前記ロック機構は、前記係合突部と前記当接面とで構成されている遊技機。

【 0 0 9 0 】

本特徴に示す構成によれば、簡易な構成によってロック機構を構成することが可能となる。

【 0 0 9 1 】

[特徴 B 4]

特徴 B 3 に記載の遊技機において、

前記ガイド部の中間部には、前記第 1 方向と前記第 2 方向の双方に対して傾斜する傾斜部（中間連絡部 5 6 ）が備えられている遊技機。

30

【 0 0 9 2 】

本特徴に示す構成では、移動ベースを第 1 方向に駆動することによって係合突部をガイド部に沿って移動させることが可能となり、中継部材を第 2 方向に移動させることが可能となる。

【 0 0 9 3 】

[特徴 B 5]

特徴 B 1 乃至 B 4 のうち何れかに記載の遊技機において、

前記付勢手段の付勢力は、前記可動演出部材が前記第 2 位置へ向かうにつれて大きくなる遊技機。

40

【 0 0 9 4 】

本特徴に示す構成によれば、第 2 位置に配置された可動演出部材が第 1 位置へ向かうときの動作の素早くすることが可能となる。

【 0 0 9 5 】

[特徴 B 6]

特徴 B 1 乃至 B 5 のうち何れか 1 に記載の遊技機において、

前記可動演出部材は、自重に逆らって前記第 2 位置から前記第 1 位置へ移動するように構成されている遊技機。

【 0 0 9 6 】

本特徴に示す構成では、可動演出部材の自重に逆らった移動を付勢手段によってアシス

50

トすることが可能となる。

【 0 0 9 7 】

[特徴 B 7]

通常は第 1 位置 (図 3 に示される可動装飾部 6 1 (主動パーツ 6 4) の位置) に付勢され、駆動源 (駆動源 4 4) からの動力を受けたときに前記第 1 位置から第 2 位置 (図 6 に示される可動装飾部 6 1 (主動パーツ 6 4) の位置) へ移動する可動演出部材 (可動装飾部 6 1、特に、主動パーツ 6 4) と、

前記可動演出部材が前記第 2 位置に配置された状態で前記駆動源がオフされたときに、前記可動演出部材が前記第 1 位置に戻ることを規制するロック機構 (ガイド溝 5 5 と中継レバー 7 1 の係合突部 7 1 T) と、を有する遊技機 (遊技機 1 0) 。

10

【 0 0 9 8 】

本特徴に示す構成では、可動演出部材が第 2 位置に配置されたときに、駆動源がオフされても、ロック機構によって可動演出部材が第 1 位置へ戻ることが規制される。これにより、駆動源の負荷を低減することが可能となる

【 0 0 9 9 】

なお、特徴 B 7 に示す構成に、特徴 B 2 ~ B 6 に示す構成が組み合わされてもよい。

【 符号の説明 】

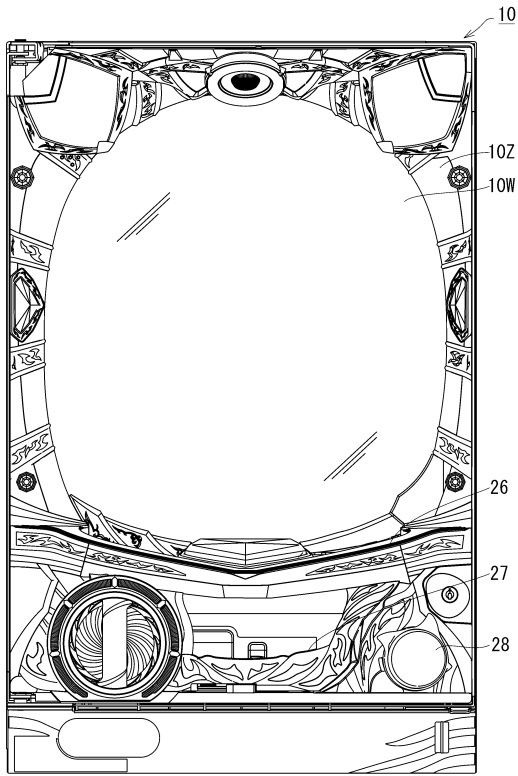
【 0 1 0 0 】

- 1 0 遊技機
- 4 1 固定ベース
- 4 2 N 直動ガイド孔
- 4 4 駆動源
- 5 1 スライドベース
- 5 2 T 係合突部
- 6 1 可動装飾部
- 6 2 固定パーツ
- 6 3 回動パーツ
- 6 4 主動パーツ
- 7 1 中継レバー
- 7 1 T 中継レバー
- 7 2 回転盤
- 7 3 揺動レバー

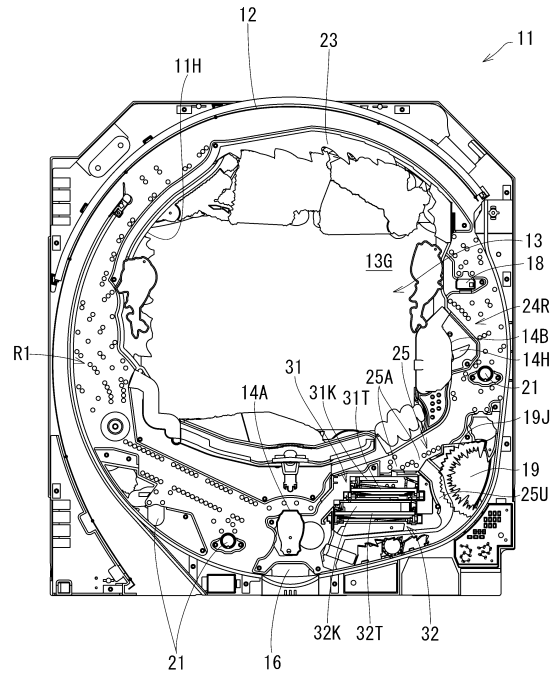
20

30

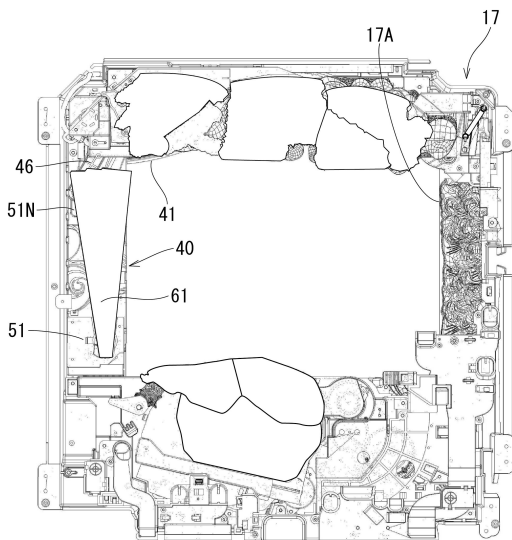
【図1】



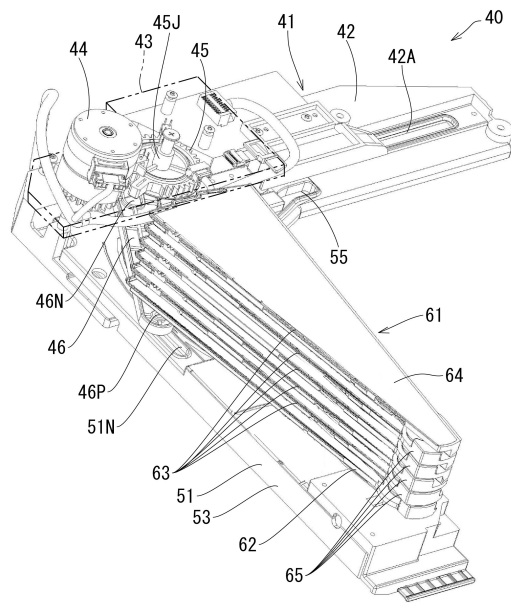
【図2】



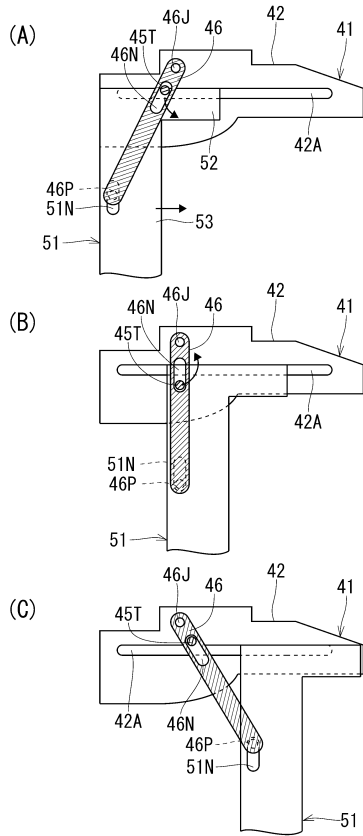
【図3】



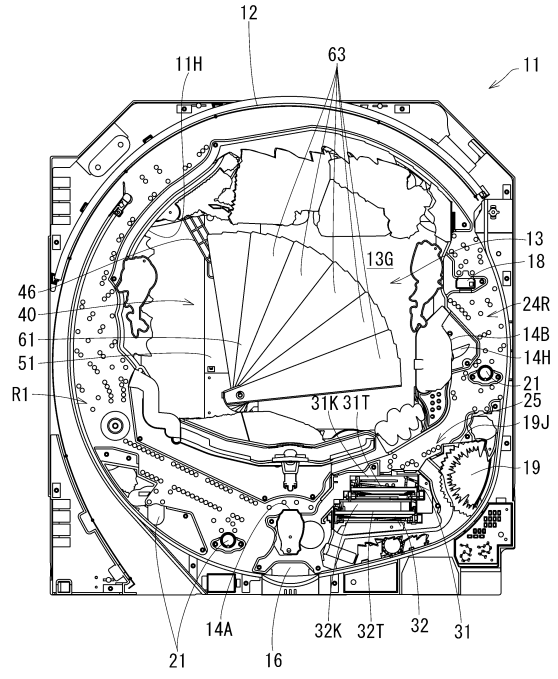
【図4】



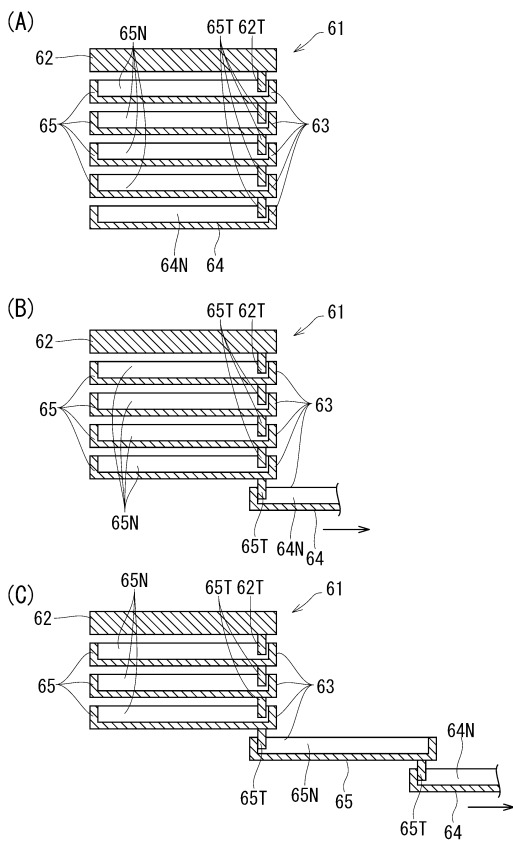
【 図 5 】



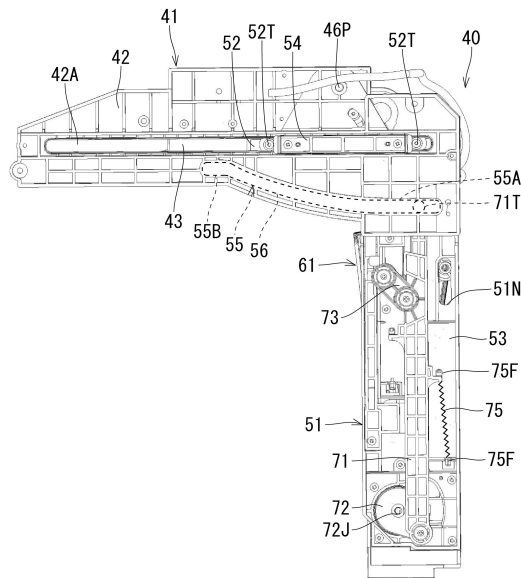
【 図 6 】



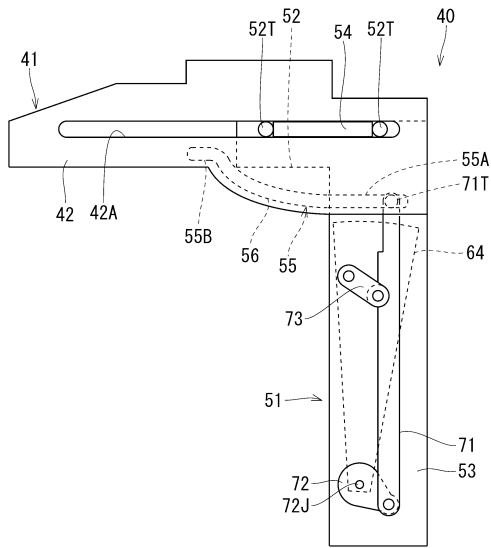
【 図 7 】



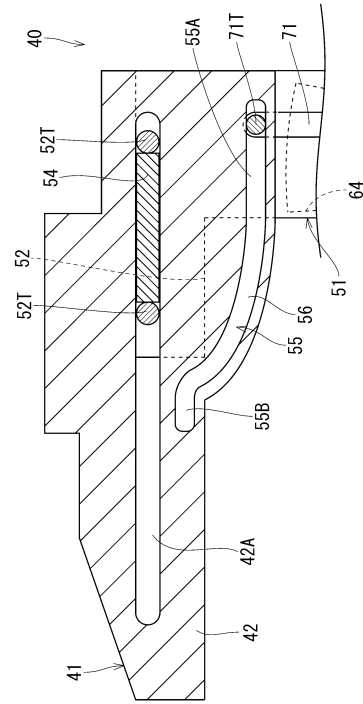
【 図 8 】



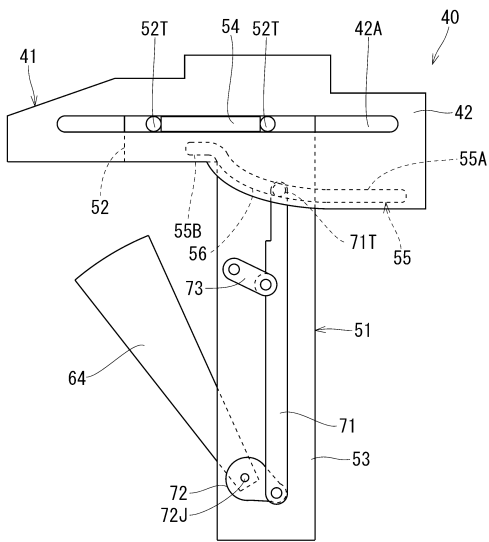
【図 9】



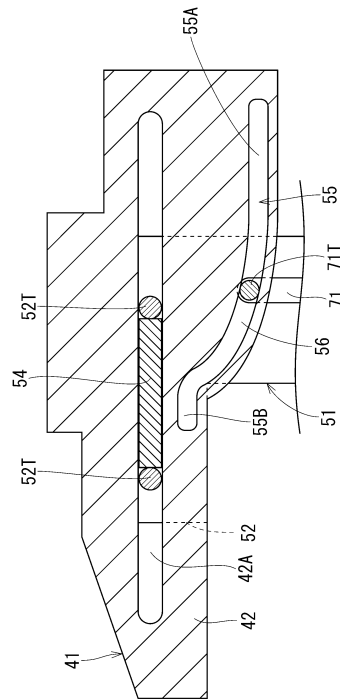
【図 10】



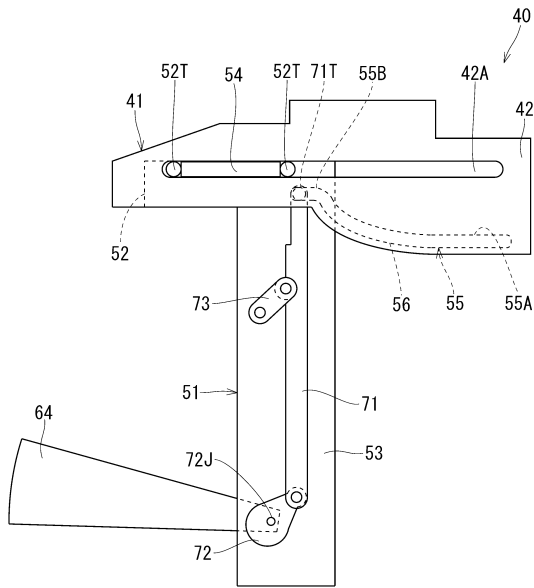
【図 11】



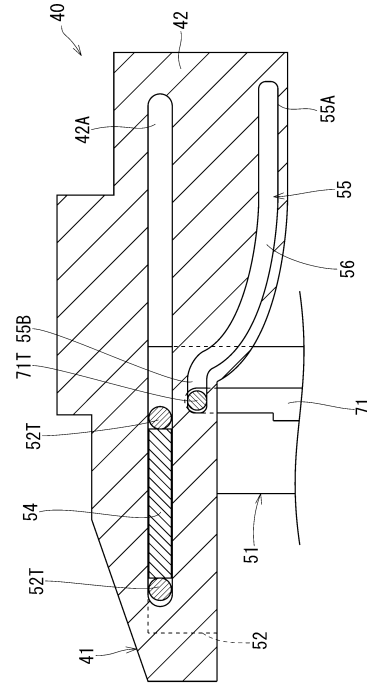
【図 12】



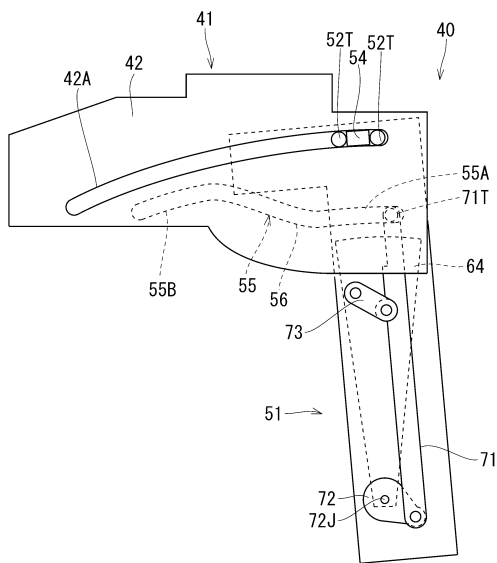
【 図 1 3 】



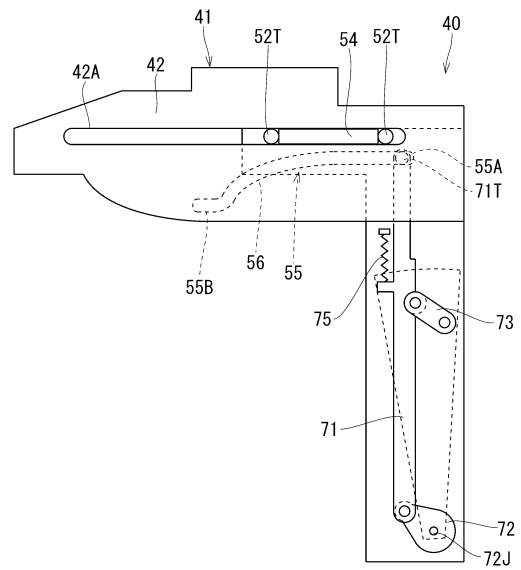
【 図 1 4 】



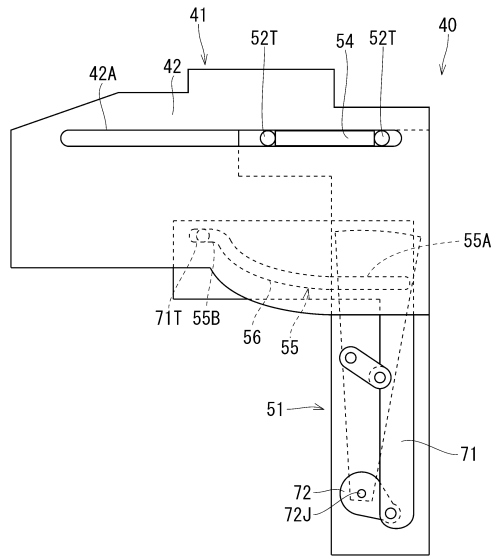
【 図 1 5 】



【 図 1 6 】



【 図 17 】



フロントページの続き

(72)発明者 稲垣 忠

愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内

審査官 河本 明彦

(56)参考文献 特開2017-136278(JP,A)

特開2013-162987(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A63F 7/02